

樟彩

～ 岩田学園だより 2024年2月号 ～



目次	P	「いじめ防止基本方針」と対応組織図について(定期配信)	校長 兄玉 洋司
「いじめ防止基本方針」	12	<p>いじめ防止基本方針</p> <p>2014年10月1日制定 2018年7月10日改正 2020年4月1日改正 2021年5月20日改正 2023年12月25日改正</p> <p>1. 目的</p> <p>近年、いじめは冷やかしやからかいなどのほか、SNSなど情報機器等を介したいじめ、暴力行為に及ぶいじめなど、年々複雑化し、学校だけでは対応が困難な事案も国内で増加している。また、いじめをきっかけに不登校になってしまったり、自らの命を絶とうとしてしまったりするなど、深く傷つき、悩んでいる生徒もいるため、いじめの問題への対応はすべての教育機関において大きな課題である。</p> <p>そこで、生徒達が意欲を持って充実した学校生活を送れるよういじめ防止に向け、日常の相談体制の整備し、いじめの未然防止を図りながら、いじめの早期発見に取り組むとともに、いじめを認知した場合は適切に且つ速やかに解決するために『岩田学園 いじめ防止基本方針』を定める。</p> <p>2. 基本理念</p> <p>いじめは、いじめを受けた生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命または身体に重大な危険を生じさせるおそれがあるものである。いじめの防止等の対策は、すべての生徒が安心して学校生活を送り、様々な活動に取り組むことができることをめざして行わなければならない。</p> <p>3. いじめに対する共通理解</p> <p>(1) いじめの定義 (いじめ防止対策推進法 第2条)</p> <p>『いじめ』とは、生徒に対して、当該生徒と一定の人的関係にある他の生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む)であって、当該行為の対象となった生徒が心身の苦痛を感じているものをいう。また、けんかであってもしっかりと調査をして対応する。軽微な案件はいじめという言葉を使わず指導するなど、柔軟な対応による対処も可能である。ただし、いじめとして情報共有し、必要に応じて他の事情も勘案して判断するものとする。</p> <p>(2) いじめに対する基本的な考え方</p> <p>『いじめは絶対に許されない』、『いじめはいじめの側が悪い』との認識</p> <p>『いじめは、どの生徒にも、どの学校においても起こり得る』との認識</p> <p>『いじめの未然防止は、学校・教職員の最重要課題』との認識</p> <p>(3) いじめの構造と動機</p> <p>いじめは、『いじめられる生徒』、『いじめ</p>	<p>生徒』だけでなく、観衆や傍観者』』どの周囲の生徒がいる場合が多い。周囲の生徒の捉え方により、抑止作用になったり促進作用となったりする。また、いじめの動機には、嫉妬心・支配欲・愉快犯・同調性・嫌悪感・反発や報復・欲求不満といったものが考えられる。</p> <p>(4) いじめの態様</p> <p>①冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる</p> <p>②仲間はずれ、集団による無視をされる</p> <p>③軽くぶつかったり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする</p> <p>④ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする</p> <p>⑤金品や物品を要求される</p> <p>⑥金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする</p> <p>⑦嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする</p> <p>⑧SNS等で、虚偽の情報を流されたり、誹謗中傷をされたりする。</p> <p>4. いじめの未然防止のための取組み</p> <p>(1) いじめ対策委員会</p> <p>いじめを未然に防ぐための指導方法や対策を協議するために、次の機能を担う『いじめ対策委員会』を設置し、必要に応じて開催する。</p> <p>(構成員)</p> <p>校長、教頭、寮監長、生徒指導主任、人権学習担当、養護教諭</p> <p>(開催)</p> <p>年1回開催し、必要に応じて校長が臨時に召集する。</p> <p>(活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題対応の年間計画の作成 ・校内のいじめの現状把握と指導方針・対策の決定 ・学校におけるいじめ問題への取組みの点検 <p>(2) 社会適応力を育成する取り組み</p> <p>①人権教育の推進</p> <p>本校の教育の方針に基づく日々の教育活動をはじめ、各教科の授業、生徒会活動、ボランティア活動、総合的な学習の時間、ホームルーム活動、人権講演会、学校行事等に人権教育の視点を位置づけ、いのちの大切さを理解すると共に、他者を認めやさしい配慮ができる生徒の育成をする。</p> <p>②体験活動の推進</p> <p>様々な学校行事と本校が従来推進してきたボランティア活動などを通して、生徒同士がお互いをよく知ると共に、相互扶助の心を育成する。</p> <p>③特別活動の充実</p> <p>集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を構築する力を育むことを目的として、ホームルーム活動、生徒会活動、部活動、キャリア教</p>
生徒総会	34		
APU後期フレゼン大会	5		
卒業生のパトニルレー	5		
学校評価アンケート結果	6		
体育大会の日時・会場	6		
部活動等結果	7		



育、その他の学校行事の指導の充実を図る。
研究授業、教員研修、授業評価アンケート等を通して、生徒にとって楽しくてわかる授業の実践に努め、生徒の学ぶ意欲と自己有用感を高める。

(3) 教育相談体制の充実

朝終礼、ホームルーム活動、授業等において、担任および教科担当が生徒の小さな変化にも気づくことができるよう常に細心の注意を払う努力をする。また、定期的にクラス担任は個別面談を行い、人間関係の悩み等を聞き取りと同時に、養護教諭や人権学習担当との連携協力を図り、適切な助言やクラス全体への働きかけができるよう努める。

(4) 生徒への啓発

いじめに関する注意喚起を機会あるごとに行うと同時に、生徒会を中心として生徒自らがいじめは絶対に許されない行為であるという意識を高める活動を推進していく。また、生徒だけではなく保護者にもSNS等インターネット上でのいじめに関する現状と対策について外部講師による講演会を実施していじめ防止への理解と協力を求める。

(5) コミュニケーション能力の育成（アサーティブな対応ができる生徒を育てる。）

『相手のことを思いやる大切さ』、『自分の気持ちを伝える大切さ』を認め、それを行動化できる生徒を育成することを人権教育の目標に掲げる。

5. いじめの早期発見のための取組み

(1) 積極的ないじめの認知

朝終礼、ホームルーム活動、授業等で生徒の表情やしぐさをきめ細かく観察すると共に、わずかな変化に対してもいじめの兆候ではないかとの疑いを持ち、教育相談や養護教諭、スクールカウンセラーと連携しながら積極的ないじめを認知するよう努める。

(2) 自己チェックシステムの活用

生徒が定期的に自分の生活を振り返るための自己チェックを行い、それをクラス担任が確認することにより、いじめ等の早期発見に努める。

(3) アンケートの実施

定期的にいじめ等のアンケート調査を行い、問題の早期発見に努める。

(4) 保護者との連携

日頃から担任と保護者との連絡を密に行い、保護者がどんな些細なことでも担任に相談できる環境作りを努める。また、量販店や駅などの関係機関との連携を進め、地域での生徒の様子を把握する。さらに、担任以外にも養護教諭、スクールカウンセラーと相談できる旨を周知し、問題の早期解決を図る。

(5) 外部機関との連携

大分中央警察署や大分県こころからだの相談支援センター等の外部機関と定期的に情報交換す

る中で、学校外におけるいじめ等問題行動の早期発見に努める。

6. いじめの早期解決に向けた取組み

(1) いじめ調査・サポート委員会

いじめが起きた時、設置し、委員は速やかに実態を調査し、協議を重ね問題解決に向けて計画の立案と適切な対応により、被害生徒を守り通す。一方、加害生徒に対しては教育的配慮の下、毅然とした態度で指導に当たる。

(構成員)

生徒指導主任、人権学習担当、養護教諭、
スクールカウンセラー、当該分掌主任、
当該学年主任、当該学級担任、当該教科担任、当該部活動顧問等

(活動)

- ・いじめの実態調査
- ・当該いじめ事案の対応方針の決定
- ・当該いじめ事案の対応経過確認および対応方針の修正

(2) 被害生徒・加害生徒への迅速な対応

複数の関係者からの情報収集および事実確認をした上で、被害生徒の安全を最優先に考え、加害生徒に対しては毅然とした態度で指導に当たる。教職員への情報共有に関しては、まず授業担当者等の説明を速やかに行い、状況に応じて臨時職員会議を開催して経緯や対応について協議する。

被害生徒に対して、継続的なカウンセリングを行うなどメンタル面のサポートを十分にを行い、一日も早く安心して学校生活を送れるように努める。また、授業を教室で受けられない状況の場合、速やかに別室での学習指導や自宅を含めたオンライン授業を計画・実行する。

加害生徒に対して、いじめに至った背景等をカウンセリング等により聞き取り、本生徒の立ち直りと再発防止に努める。

(3) 保護者との連携

被害生徒および加害生徒の保護者に対して、家庭訪問等によりいじめの状況と今後の対応について十分な説明を行い、理解と指導についての協力を得る。

(4) 外部機関との連携

必要に応じて、大分中央警察署や大分県心からだの相談支援センター等の外部機関と連携を取りながら早期解決に向けた最善の方法を講じる。

犯罪行為として取り扱われるべき事案については、学校法人および大分中央警察署等と連携して対処する。また、必要に応じて大分地方法務局や大分県中央児童相談所と連携を取りながら、いじめの被害者や加害者への適切な対応について教示を得る。

7. 重大事態への対応

(1) 重大事態とは

重大事態とは、『いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認める』事態及び『いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認める』事態と定義されている。

いじめ防止対策推進法第28条第1項は重大事態を、いじめにより重大被害が発生した『疑いがある』事態と定義している。したがって、いじめの実行行為と重大被害の発生との間に因果関係が存在することが疑われれば、因果関係の存在が明白でなくとも、この要件が満たされることになり、さらに、そもそもいじめの発生が疑いにすぎなくとも、いじめの発生が疑われ、かつ、いじめにより重大被害が発生したと疑われるときは、この要件が満たされることになる。

なお、重大被害の発生は、学校にとって明白でなければならず、発生の疑いがあるというだけでは足りない点に注意を要する。(以上、いじめ防止対策推進法第28条第1項より)

(重大事態)

- 生徒が自殺を企画した疑いがある場合
- 身体に重大な障害を負った疑いがある場合
- 精神性の疾患を発症した疑いがある場合
- 金品等に重大な被害を被った疑いがある場合
- 余儀なく年間の欠席が30日程度以上になった疑いがある場合
- 連続した欠席の場合は、その疑いがある場合は状況により判断する
- 生徒や保護者から、いじめられて重大な事態に至ったという申し立てがあった場合

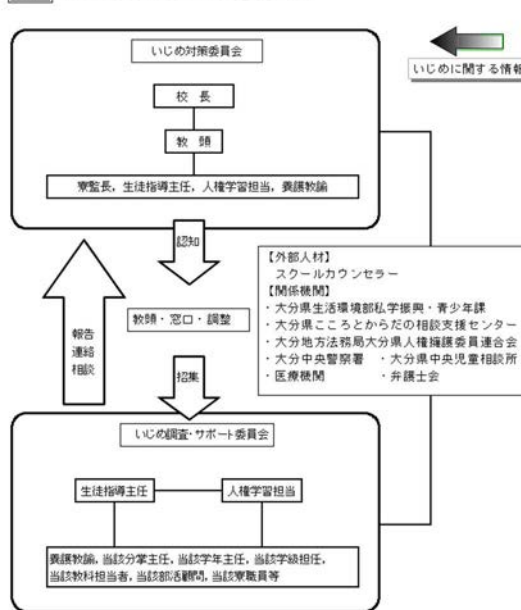
(2) 対応ならびに関係機関への報告

重大事態が発生した旨を、学校法人および大分県生活環境部私学振興・青少年課を通じて知事に速やかに報告する。その後、学校が調査の主体となる場合は、全学危機管理委員会が緊急対策本部を設置し、実行委員会タスクフォースがいじめ調査・サポート委員会を召集し、当該重大事態に応じて適切な専門家を加えて調査を実施する。そして、いじめを受けた生徒、保護者及び関係した生徒の心のケアに努めるとともに再発防止に努める。

8. 学校の基本方針の評価等

いじめ対策委員会を中心として、全教職員により学校のいじめ防止基本方針を定期的に評価し、必要に応じて見直しを図る。また、保護者対象の学校評価アンケートの項目に、いじめ問題等の基本方針について評価する項目を加え、学校の取組みを検証する。

【資料1】 岩田中学校・高等学校 いじめ問題対応組織図



【チェックシート1】

1 いじめられている生徒のサイン

いじめられている生徒は自分から言い出せないことが多い。多くの教員が目でも多くの場面で生徒を観察し、小さなサインを見逃さないことが大切である。

場面	サイン
登校時 朝のSHR	<input type="checkbox"/> 遅刻・欠席が増え、理由を明確に言わない <input type="checkbox"/> 教員と視線を合わせず、うつむいている <input type="checkbox"/> 体調不良を訴える <input type="checkbox"/> 提出物を忘れたり、期限に遅れる <input type="checkbox"/> 担任が教室に入室後、遅れて入室してくる
授業中	<input type="checkbox"/> 保健室・トイレに行くようになる <input type="checkbox"/> 教材等の忘れ物が目立つ <input type="checkbox"/> 机周りが散乱している <input type="checkbox"/> 決められた座席と異なる席に居る <input type="checkbox"/> 教科書・ノートに汚れがある <input type="checkbox"/> 突然個人名が出される
休み時間等	<input type="checkbox"/> 弁当にいたずらされる <input type="checkbox"/> 昼食を教室の自分の席で食べない <input type="checkbox"/> 用のない場所にいることが多い <input type="checkbox"/> らざらっ合っているが表情がさえない <input type="checkbox"/> 衣類が汚れていたりしている <input type="checkbox"/> 一人で構っている
放課後等	<input type="checkbox"/> 慌てて下校する。または、用もないのに学校に残っている <input type="checkbox"/> 持ち物がなくなったり、持ち物にいたずらされる <input type="checkbox"/> 一人で部活動の準備、片付けをしている

2 いじめている生徒のサイン

いじめている生徒がいることに気付いたら、積極的に生徒の中に入り、コミュニケーションを増やし、状況を把握する。

サイン
<input type="checkbox"/> 教室等で仲間同士で集まり、ひそひそ話をしている <input type="checkbox"/> ある生徒にだけ、周囲が異様に気を遣っている <input type="checkbox"/> 教員が近づくと、不自然に分散したりする <input type="checkbox"/> 自己中心的な行動が目立ち、ホスの存在の生徒がいる



生徒総会 ～2月8日(木)開催～

生徒会担当 金山 順宣

昨年と同様、対面方式で高3を除く全校生徒が集まって実施されました。第38期生徒会執行部の進行のもと、第39期生徒会の各委員会において、以下の活動内容や提案事項が承認されました。



◇執行委員会

【生徒会長】津村明希
【副会長】上田琥太郎、島本楓
【庶務】梅木志恩、川越るり

<スローガン>

蒼穹(そうきやう)～夢翔る未来の青空～

<活動内容>

- ①学園祭関係
→学園祭の改革や企画、運営などを行う。
屋台のリクエストを試行する。
- ②ボランティア活動
→ボランティア委員会と協力して、募金活動などを行う。
- ③歓迎遠足などの行事の企画、運営
- ④「生徒会活動報告書」の作成
→広報委員会と協力して、各委員会の情報を収集して作成する。
- ⑤傘の貸し出し
→生活委員会と協力して、雨天時に傘を貸し出す。
- ⑥『いいところ見つけ』の実施
→実施するかどうかは今後検討しますが、内容は学期末にクラス毎にお互いの長所を書いた紙を交換し合う。(自分に自信をもたせたり、級友との絆を深めたりすることを目的とする。)

<提案事項>

- ①学園祭の新案実施
→新イベントの案の募集と実施、新グッズの販売、スタンプラリーの実施
- ②学校設備の修繕
→トイレの便座の新装、駐輪場の屋根、その他補修すべき設備の修繕
- ③昼休みの活動
→体育館の開放(体育委員会と協力)・備品使用許可
→放送イベントの実施検討(昼休みラジオなど)
- ④私服許可日の導入
- ⑤夜間学習の再開検討
→放課後6時以降の自習を希望制で許可できるように今後、学校と交渉していきます。

◇体育委員会

【委員長】岡田義治
【副委員長】村上希法

<スローガン>

スポカ

<活動内容>

- ①体育大会の企画・運営
 - ②クラスマッチの企画・運営
 - ③授業用ビブスの洗濯
→夏は1週間に1回、冬は2週間に1回
土曜日の放課後に行う
→洗濯の回数については、増やせるか前向きに検討します。
 - ④体育倉庫の掃除
→毎週土曜日の放課後に行う
 - ⑤体育用具の整理
→毎週土曜日の放課後に行う
- <提案事項>
- ①体育大会の新競技の提案
 - ②クラスマッチの競技の見直し
 - ③昼休みの体育館開放時の管理

◇広報委員会

【委員長】和田百花
【副委員長】安達珠理

<スローガン>

Moment～一瞬一瞬を大切に～

<活動内容>

- ①新聞の発行
→新聞は2・4・6・10月に発行する。
→内容は学校行事や部活動紹介など
→発行形態はBLEND上でのデータ配信
→体育大会、学園祭、クラスマッチの時期などに臨時号を発行する。
- ②生徒会活動報告書の作成
→各委員会の公約や、活動内容の進捗状況を毎学期末にBLENDにて配信する。

<提案事項>

- ①新聞の英語版の発行
→APU生や留学生にも伝わるように英語版を発行する。
- ②生徒アンケート実施
→BLENDで生徒に様々なアンケート(任意)をとり、岩田新聞にて結果を発表する。
- ③課外活動について配信
→あしなが募金など課外授業についても可能な限り岩田新聞に記載する。
- ④各クラスの広報委員との連携
→各クラスの広報委員に岩田新聞の話題を考えてもらう。

◇図書委員会

【委員長】金丸麗
【副委員長】此本茉央

<スローガン>

章編三絶

<活動内容>

①図書館の管理

→各クラスの担当曜日を決めて、当番表を配布する。来ない場合は、報告書を担任の先生に渡す、もしくはクラスの連絡ボックスに入れる。

②要望のある本の購入

→図書室内にある用紙に読みたい本の名前を書き、箱に入れてもらい、要望のあった本は購入を検討する。

③図書室の開館時間

→昼休み12:30～13:00

④「岩田生の主張」の募集・運営

→学園祭「岩田生の主張」出場者の募集、発表の練習、参考資料の紹介をする。

⑤1号館1階にある図書室の特別開放

→図書室には入りきらない本を収容している図書室を一時的に公開する。

⑥本に関するイベントの開催

→図書委員と希望者による書評ゲーム「ビブリオバトル」を開催する。

<提案事項>

①図書室の管理

→各クラスの当番の人にteamsで連絡する。

②図書室の開放

→木曜日の16:30～18:00に図書室を開館する。定期的に移動図書室を実施する。

③図書日より

→学期に1回、図書日よりを発行する。

④スタンプカードの配布

→本を借りに来た人にスタンプカードを配布
スタンプが溜まったら本の葉と交換(本を1冊借りるごとにスタンプ1個、15個で交換。)

⑤イベントの開催

→本の知識を楽しく学べるイベントを開催する。

⑥放課後の映画鑑賞会

→図書室にあるDVDの上映会を開催する。

⑦読まなくなった本の寄贈

→生徒から出来るだけ発行年の新しい本を募る。

◇文化ICT委員会

【委員長】小野楓枝
【副委員長】矢田悠人

<スローガン>

PLUS ULTRA ～さうに向こうへ～

<活動内容>

①生け花教室

→季節行事ごとに開催(約2ヶ月に1回)

→2回参加で御免状を申請出来る

②文化的活動

→芸術鑑賞会での運営補助

③講習会の開催

→伝統文化を伝える人や企業にお願いし講習会を開催する。



学園だより

④目安箱のICT化

→学期毎にBLENDを通して生徒会に対するアンケートを行う。

<提案事項>

①文化新聞の改変

→新聞を2ヶ月に1回BLENDで配信
→内容は生け花教室について、大学紹介等

②タイピング早打ちコンテストの開催

→年に1, 2回の開催を予定
→学年問わず参加可能

③生け花の展示場所の確保

→生け花教室に参加した人たちの生け花を展示出来る場所をつくる
→可能なら入学式や学園祭等でも展示できるようにする。

④イベントを増やす

→イベントを積極的に開催する
→学校内の交流を深める
→行事について知ってもらうきっかけをつくる

⑤岩田学園のVTubeを作成

→誰でも気軽に作れるツールを活用して岩田学園公式VTuber, 並びに岩田学園の生徒がVTuberを作成し岩田学園のYouTubeなどにアップする。
→岩田学園を紹介する内容のものを募る
→プライバシーの保護や安全には配慮します。

◇保健委員会

【委員長】 亀山沙来

【副委員長】 稲石孝輔

<スローガン>

健康第一

<活動内容>

①消毒活動

→手すり, 自動販売機など

②消毒液, 手洗いうがいの呼びかけ

→10分休みに各クラスの保健委員がよびかけ

③各イベントでの補助

→体育大会やクラスマッチでの消毒活動

④身体測定での補助

→準備と後片付け

<提案事項>

①保健だよりの掲載

→月1回掲示物の作成

②講演会の開催

→外部の講師をお招きして心の健康に対する講演会などの実施

③石鹸やアルコールの定期的な補充

→保健委員が1週間に1度は必ず確認に行くので, その時になくなっていたら補充をする。

④健康観察の呼びかけ

→各クラスの保健委員が毎朝朝礼時呼びかける

◇ボランティア委員会

【委員長】 松尾果純

【副委員長】 室ほのか

<スローガン>

繋ぐ

<活動内容>

①ペットボトルキャップ・コンタクトレンズの回収, 呼びかけ

→ペットボトルキャップ・コンタクトレンズを集める。また, 回収ボックスの配置をし, 個数を確認する。

(1号館・3号館・寮に1つずつ設置)

→学園祭前は強化週間として, 普段も配置します。

②書き損じはがきの回収, 呼びかけ

→試験的に通年回収ボックスを置いて回収しようと思います。

③募金活動の実施

→あしなが学生募金活動への参加, 呼びかけ(希望者のみ)

→歳末助け合い募金

※その他時期, 需要に応じた募金活動を行う予定です。

<提案事項>

①募金活動

→世界・日本の問題に対する募金の実施
※募金先については既存のクラウドファンディングも含めて検討する。

②クラス対抗でのペットボトルキャップ・コンタクトレンズの回収実施(期間限定)

→多く集まったクラスには学園祭での総合得点に生徒会からのポイントとして, 得点に追加します。

◇生活委員会

【委員長】 野村心春

【副委員長】 佐藤麟太郎

<スローガン>

Happy iwata life

<活動内容>

①自転車点検

→年に2回ある自転車点検の検査の補助, 抜き打ちツーロックの検査を行う予定ですが点検を自転車屋さんで行うことや, ロックに関しては1ロック, 2ロックを自己責任にするかも含めて今後検討します。

②落とし物新聞

→1学期に1回, 落とし物新聞を教室掲示&BLEND配信

③傘の貸し出し

→週に1回生活委員が見回り, 本数を確認・整備する

④17アイズ自販機

→1ヶ月に1回の頻度でアンケートを実施し, 改善を検討する。

⑤効率化をはかるため, 生活委員と美化委員の合同で実施する。

<提案事項>

①おしゃれな制服の着こなしの提案

→ポスターを作成しておしゃれな制服の着こなしのポイントを発信する。また, おしゃれの基準については, 今後検討します。

②マナーアップの提案

→バス停やバスの中でマナーが悪い人を見つけるように注意する。

③質問BOX

→遵守規定・その他の疑問を解決する。
→メタモジ内に設置する。

④トリセツ

→学校生活の上で少し曖昧になっている事についてお知らせをする予定です。

◇美化委員会

【委員長】 矢野さくら

【副委員長】 村上匠人

<スローガン>

清掃乃自由廉(せいそうのフリーレン)

<活動内容>

①火・水・木・金・土曜のゴミステーションの開放

※月曜日は渡り廊下のゴミ箱回収を行うため, ゴミステーションは開放していません。

②掃除用具の点検・交換・補充

→前掃除道具のチェック表を作り, 月に1回委員長と副委員長が放課後点検, 交換, 補充する計画をしているが, 交換の回数については, 今後検討する。

③ゴミ箱のふきあげ

→各学期の最後の週に, 学年毎に各クラスのゴミ箱を掃除する。

④トイレの消臭ビーズ, 保冷剤の交換

→3ヶ月毎に交換する計画をしているが, 回数については今後検討する。

⑤学園祭後片付け日のゴミの分別

→効率化を図るため, 美化委員と生活委員が合同で実施。

⑥同窓会地域清掃への参加

→各クラスの美化委員・ボランティア委員は同窓会地域清掃に参加。

<提案事項>

①草むしりの実施

→各学年のLHRや総合, 入念清掃時に草むしりを行う。

※体育大会前, 文化祭前, 入試説明会など, 行事前に行く予定。場所・時間は後日連絡します。

②分別ポスターの作成

→学校でよく出るゴミの分別ポスターと17アイズのゴミの分別方法をわかりやすくまとめたポスターをつくる。

③17アイズのゴミ分別の見張り

→まずはポスターなどで呼びかけてそれでも改善が見込めなかった場合は見張り(呼びかけ)を行う。



後期プレゼン大会 ～APUコース～

APU講座担当 成松 茂

1月24日(水)、本校4号館大講義室を会場として、4-4および5-4の後期プレゼン大会が行われました。午前は高1の5班が「日本のSDGsの取り組みと私たちにできることを考えてみよう」というテーマで、午後は高2の4班が「日本の新しい法律をつくろう」というテーマでそれぞれ発表を行いました。どの班の発表もテーマに沿った充実した内容で、観客にとって分かりやすく強い印象を与えるよう、スライドにもさまざまな工夫がされていました。また前期に比べて発表者がしゃべるスピードや声の大きさがとても聞きやすくなっており、練習のあとがうかがえました。全ての班の発表が終了した後に児玉校長とAPUの佐脇教授から講評をいただきましたが、両先生とも生徒たちの成長ぶりを称えておられました。前期・後期とも、APUの学生Teaching Assistantの方々が、班ごとについて生徒を指導してくれました。年齢に近いこともあって、学生と生徒たちはすぐに打ち解け、強い信頼関係を築いてプレゼン発表の制作作業を進めていました。各班の指導にあたった学生の方々には、改めて感謝の意を表したいと思います。

高1

- グループ A 「岩田の知らない環境の世界」
- グループ B 「ココロの居場所。」

- グループ C 「We Are The World～笑顔あふれる未来のために戦え～」
- グループ D 「一歩ずつ、環境に優しい未来へ」
- グループ E 「Girls or Boys～あなたはどのように思いますか～」

最優秀賞

グループE(佐藤美来・都甲すみれ・工藤英・高橋明子・松原凜太郎)

優秀賞

グループB(佐藤瑞紀・古賀愛緑・梅木颯汰・高橋莉子・田尻悠人)

高2

- グループ A 「どう？同性婚」
- グループ B 「AOC P」
- グループ C 「かぐや様に保護させたい」
- グループ D 「報道被害」

最優秀賞

グループB(星野慧・向井悠貴・矢野乃梨佳)

優秀賞

グループC(財前凜太郎・佐々木帯人・塩月媛絢・山本佳奈)



ドラマー母校に帰る ～卒業生のバトンリレー～

担当 立川 英季

本校卒業生(11回生)の 坪井 洋さんを御紹介します。



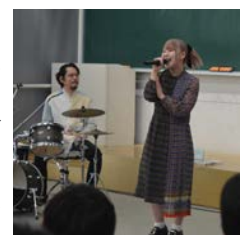
(本人談)「岩田中に最下位で入学し、特に目標もなく過ごした中学生活。しかし中3の学園祭で先輩達のバンド演奏を見て『自分も(バンドを)やりたい!』と思い立ち、自分の性格を考えてドラマーを志す。かと言って高校で練習に励むわけでもなく、悶々としてながら親と衝突する日々。その中で『自分は目標が定まれば努力できる』と証明するために大学進学を決意し、中学の勉強からやり直して見事現役で千葉大(教)に合格。大学の音楽サークルで本格的にドラムを始めたが、当然ながら経験値は最下位。しかしそこから自問自答・試行錯誤しながら音楽活動を続け、弟子入り+海外修行+社会経験(音楽を離れた時期もあったらしい)を経て現在はプロのジャズドラマーとして国内外で活動しています」

2/13(火)の5・6限に「卒業生のバトンリレー ACT-6」が実施されました。

今回は中2生を対象に、11回生坪井洋さん率いるバンドのライブ+講演という新しい形です。坪井さんは教育活動にも造詣が深く、県内外の学校で多くの講演経験をお持ちです。

今でこそ輝かしい実績(※エージェンツ2022日本大会優勝・世界大会2位タイ)を挙げて御活躍の坪井さんですが、岩田時代の成績も、大学で本格的に取り組んだドラムでも保証付きの最下位からのスタートで、聞けば聞くほどハードルが下がるエピソードを沢山披露してくれ

ました(「若気の至り」が多すぎて、ベテランの先生に会うたびに「その節は…」と腰が低くなっていました)。しかしそんな日々の中でも自分なりの人生設計と持ち前の明るさ、また「目の前の相手と幸せな時間を共有したい」思いを持ち続け、「自分が誉める自分」を見つける事ができたそうです。もちろんミュージシャンらしく、講話の合間にはオリジナルの楽曲やジャズアレンジされた校歌(これが衝撃的なほど良かった!)を聴かせてくれました。生徒も親近感のある話題に音楽を交えてリラックスした雰囲気の中で、笑ったり驚いたりしながら新しい気持ちで自分自身に向き合う機会を得たのではないかと思います。 ※世界最大のインディーズバンドコンテスト。2022日本大会は250アーティストが出場。世界大会はドイツで行われた。

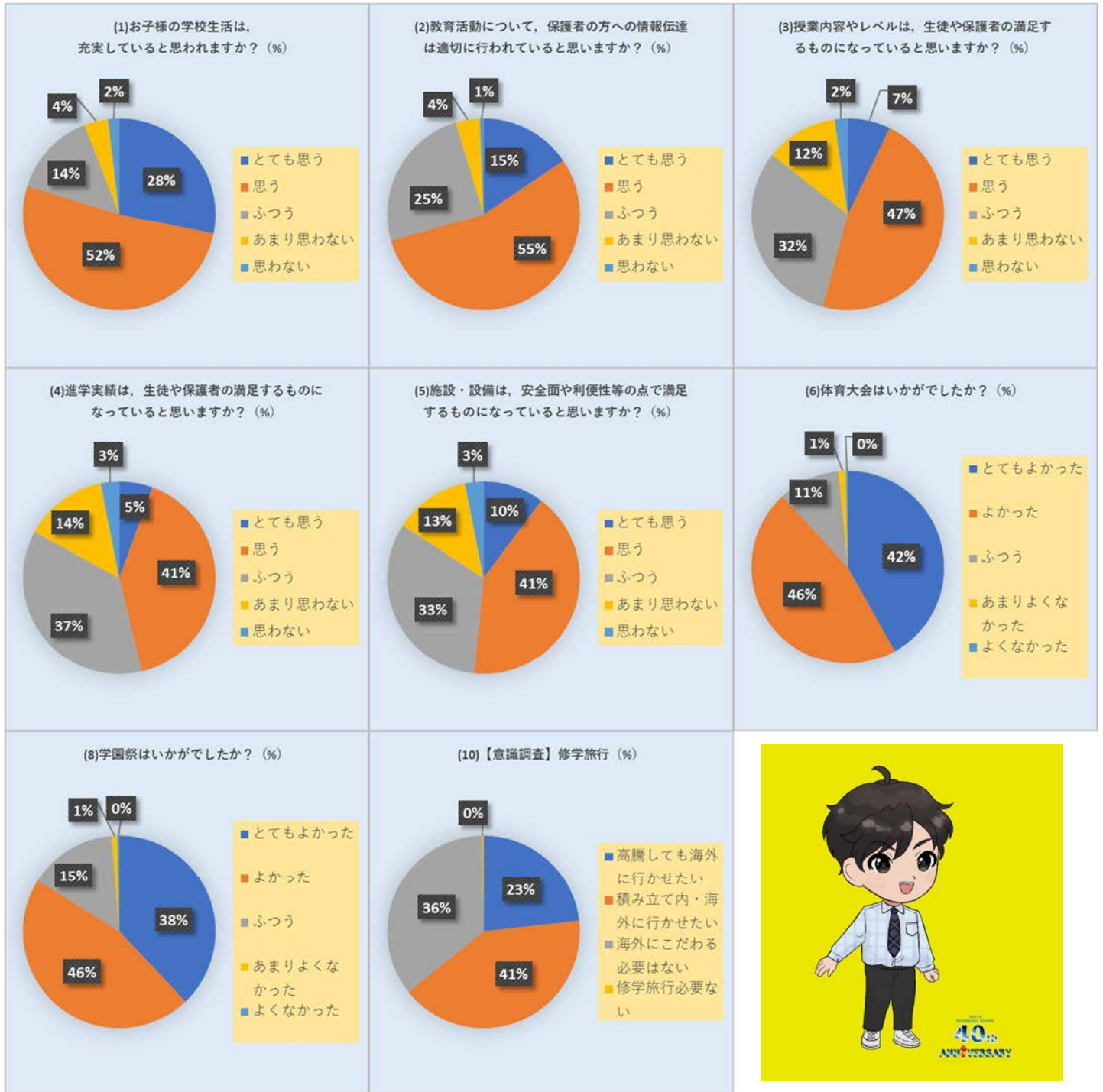


学校評価アンケート ～集計結果報告～

教頭 山月 秀夫

保護者の皆さまにご回答いただきました「学校評価アンケート」(2023年12月実施)の全校集計結果についてご報告いたします。集計数は322(73.7%)でした。アンケートへのご協力、誠に有り難うございました。

今回のアンケート結果を真摯に受け止め、『生徒のやる気を高め学力をつける』、『充実した環境をつくる』こと、そして進学実績の向上等を継続の課題とし、全職員が一丸となって鋭意邁進する所存です。



新年度(2024年度)体育大会の日・会場について

新年度(2024年度)の体育大会につきまして、5月12日(日)に本校グラウンドで開催されることが決定しましたのでお知らせいたします。

<2024年度体育大会の日・場所>

日 ち： 5月12日(日)

場 所： 本校グラウンド

1～2月の部活動等結果報告

第26回全国中学高校Webコンテスト

2月17日（土）東京にて
SKT47～見て知って考えよう！消滅可能性都市～
高校生の部：

銀賞

特別賞：ベストCM動画NeuroAI賞



探究部メタバース班

2月18日（日）
大分市オープンデータアプリコンテスト
【アイデア部門】学生グランプリ

中学1年

釘宮 真夏・川野友梨子
三ツ股 杏・斎藤 倫子



『大分市のオープンデータを活用したアプリをつくり地域課題を解決する』という大分市主催のコンテストで「ヤングケアラー問題」を解決するためのアプリアイデアを、ヤングケアラーを実際に経験した方

や、この問題を研究する大分大学の先生からアドバイスを頂くなどしてつくりあげました。中学生での「学生グランプリ」受賞は快挙です。（顧問：鈴木 真紀）

鍵かけグランプリ 2023

優秀賞 岩田中学校・高等学校

女子サッカー部

第20回BEPPU湯の華カップ
サッカー交流大会

優勝

インターアクトクラブ

2月3日（土）
国際ロータリー第2720地区
2023-2024年度大分第4グループ
IMプログラム

医師の松本祐二先生による講演「ポリオのない世界を実現するために」を聴講しました。

ポリオ（急性灰白髄炎）の説明や現状、ポリオワクチン普及への歴史など多くのことを学ぶことができ、部員も講演の内容を一生懸命メモを取っていました。今回得た知識を今後の国際奉仕活動に活かしていきたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

2月10日（土）10時～12時
石川県能登半島地震街頭募金活動

令和6年1月1日に発生した石川県能登半島地震で被災された方々への支援として、大分駅前北口及びトキハ前で街頭募金活動を行いました。初めて募金活動をする部員もいましたが、街中に



響き渡るくらい元気な声で募金への呼びかけをみんなで行い、181,794円の募金が集まりました。募金をしていただいた皆様への感謝の気持ちを忘れずに、これからも奉仕活動を続けていきます。

集まった募金は日本赤十字社及び石川県のインターアクトクラブへ全額送ります。朝早くからのお見送りなど、保護者の皆様のサポートに感謝いたします。ありがとうございます。



2月15日

日本赤十字社令和6年能登半島地震災害義援金に90,897円寄付しました。

また、2月16日に国際ロータリー2610地区地区特別基金特別会計さんへ90,897円を送金しました。

上記国際ロータリー2610地区（富山/石川）によると、能登半島地震で被災した地域では、インターアクトクラブがある高校が2校あり、現在も休校が続いており教材すら足りない状態だそうです。送金したお金は学校の復旧活動の一部として使われます。

まだまだ現状では支援が必要な状態ですので、部員を中心に引き続き支援活動を考えていきたいと思います。

（顧問：辰口 裕一朗）

<http://iwata.ed.jp/>

ホームページやブログでCheck！

能力の差は小さいが
努力の差は大きい

脚力尽くる時、山更に好し。
脚ける未来へ、全力でサポートします！



大分市岩田町1-1-1

学校法人岩田学園

電話 097(558)3007

Fax 097(556)8937

Email iwata@iwata.ed.jp

21世紀の有為な人材を育成する
岩田中学校・高等学校